

参考資料2

帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)
第2回地域意見聴取資料

平成28年2月26日

国土交通省 北海道開発局

帯広・広尾自動車道（大樹～広尾） 道路計画に関する地域の意見聴取（第2回）

帯広・広尾自動車道は、北海道横断自動車道の帯広ジャンクションから分岐し、帯広市・とち帯広空港を経由して、広尾町に至る延長約80kmの通行無料の高規格幹線道路です。平成15年3月に帯広川西ICが開通してから、平成27年3月には更別IC～忠類大樹IC間が新たに開通し、観光交流の促進や地域産業等を支える道路として利用されています。

本調査は、帯広・広尾自動車道のうち、現在調査中区間である大樹～広尾間の今後の道路計画について、地域の皆様や道路利用者の皆様にご意見を伺うものです。昨年10月に実施しました第1回意見聴取では、地域の皆様が日頃感じられている道路交通面での課題等についてご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

今回の第2回意見聴取では、帯広・広尾自動車道（大樹～広尾）が広域ネットワークを形成しつつ、地域の皆様にも便利で安心できる道路になるよう、ルート検討にあたり、重視すべき点や懸念される点についてお聞きします。

本調査へのご協力をいただきますよう、宜しくお願いいたします。

地域意見聴取の目的

■意見聴取は「計画段階評価」審議の参考となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、「計画段階評価」の取り組みを導入しました。これは道路整備等の整備方針(案)を、地域の声を聞きながら、第三者委員会(社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会)の審議を経て決定するものです。

北海道地方小委員会では、2014年7月から、帯広・広尾自動車道（大樹～広尾）を対象として、この「計画段階評価」の審議が行われています。

この審議にあたり、地域の皆様、道路利用者、関係団体の方々のご意見を伺い、その結果を踏まえ、帯広・広尾自動車道（大樹～広尾）の整備方針(案)が決定される予定です。

■委員会と意見聴取の手順

社会資本整備審議会
道路分科会北海道地方小委員会
地域の課題、政策目標(案)について審議

住民の皆様、関係団体への意見聴取

第1回

地域の課題、道路の機能について

平成26年10月に実施

第2回

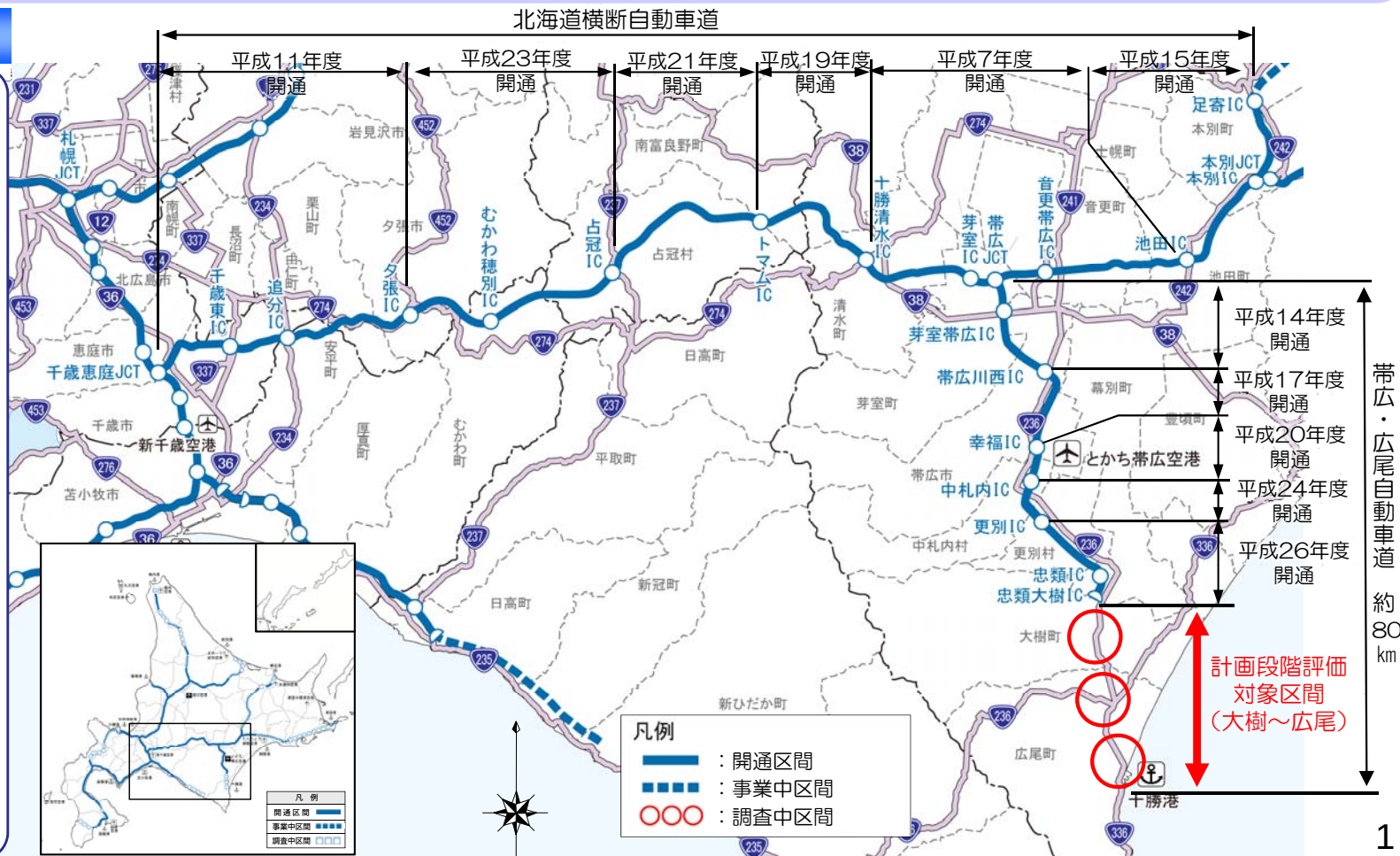
ルート検討にあたり重視すべき点や懸念される点について

今回

社会資本整備審議会
道路分科会北海道地方小委員会
意見聴取結果を踏まえ、「整備方針(案)」の決定

■委員会の開催状況

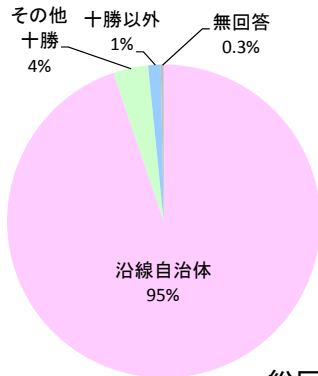
http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/shingikai/index.html



第1回意見聴取の結果

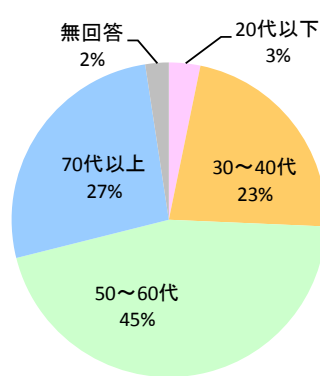
アンケート回答者の居住地、年齢、自動車を運転する頻度、大樹～広尾間の利用頻度

▼回答者居住地

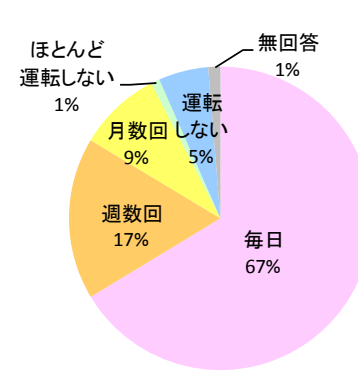


総回答者数 1,616人

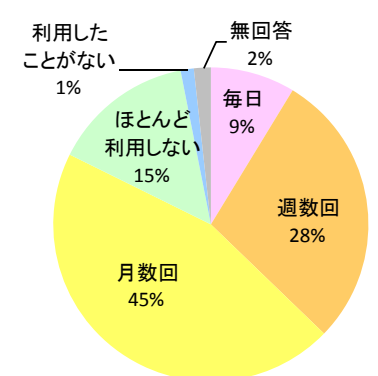
▼年齢



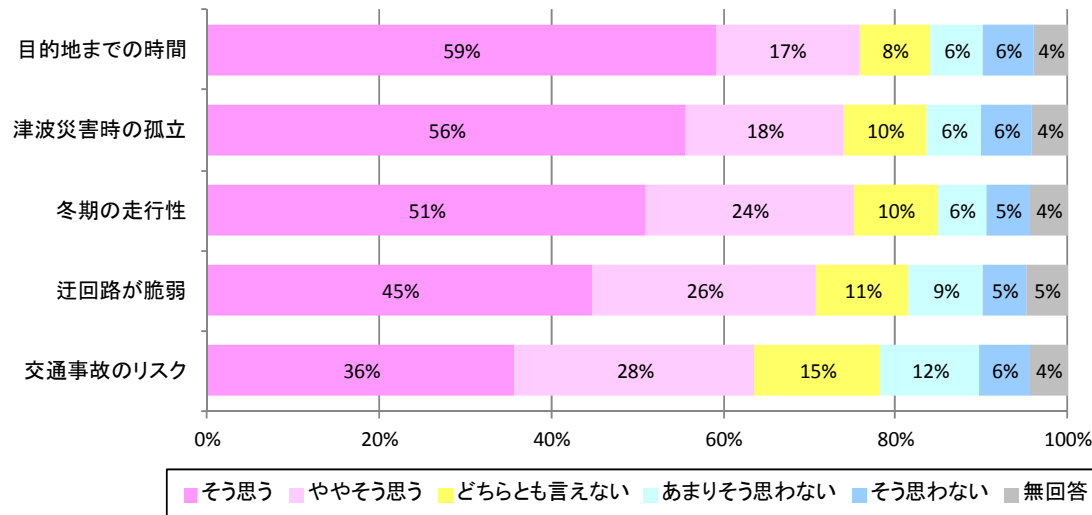
▼自動車を運転する頻度



▼大樹～広尾間の利用頻度

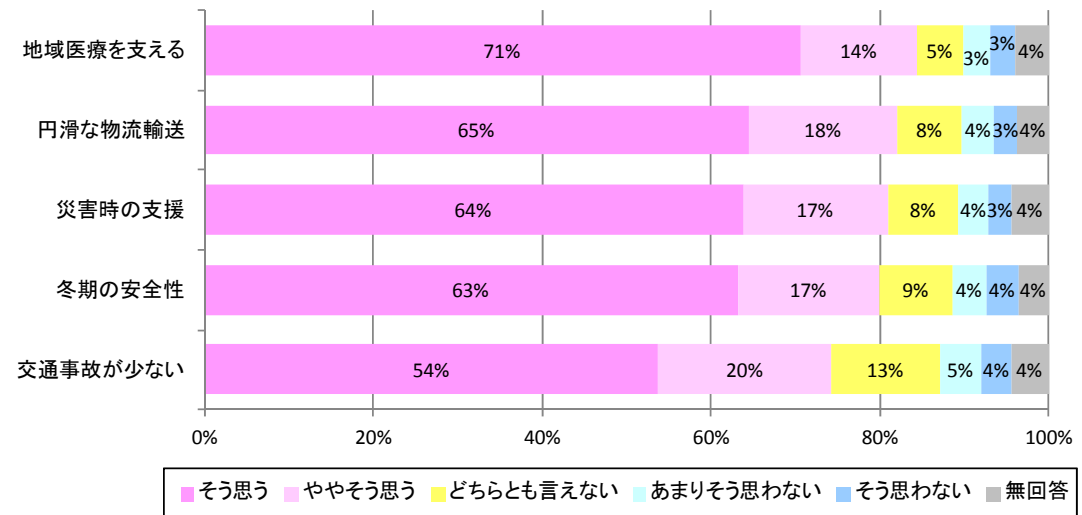


道路交通面の課題



大樹～広尾間の道路交通面の課題としては、特に「目的地までの時間」、「津波災害時の孤立」、「冬期の走行性」が課題であるとの回答をいただきました。

道路に求められる機能



大樹～広尾間の道路に求められる機能としては、特に「地域医療の支援」が多く、「円滑な物流輸送の支援」、「災害時の支援」、「冬期の安全性」という回答も多くいただきました。 2

第1回意見聴取の結果

ヒアリング調査

調査対象			実施状況
沿線自治体			10
関係団体	産業 団体	商工会	15
		観光団体	
		輸送関連団体	
		農水産業関連団体	
	消防 ・医療	消防組合	3
		病院	
	教育 機関	教育委員会	9
		高校・中学校	
		保育園・保育所	
合計			37

テーマ	主な意見
災害	○ 十勝地域はこれまでも大規模な地震が頻発しており、大規模災害が発生した場合、広尾町への唯一の連絡路である国道が寸断されれば、広尾町民が孤立する恐れがあり、救助・救援活動を支える代替性の高いネットワーク形成が必要。
物流・産業	○ 十勝港は取扱貨物量の大半を農業関連物資が占めるほど十勝の農業にとって重要な役割を果たしている。安全な物流ルート確保が必要であるとともに、輸送時間の短縮や地域間の連携強化などが期待でき、全国へ安心・安全で安定した食糧供給に寄与することができる。
地域医療	○ 南十勝地域においては周産期医療や高次医療を帯広市の病院に依存している状況であるため、高規格道路の整備により搬送時間の短縮や患者への負担軽減、また冬期間でも安全に走行出来ることから、安定した医療サービスが期待でき、地域住民の暮らしの安心・安全につながる。

第1回地域意見聴取のまとめ

- 多くの道路利用者や関係団体の皆様が現道の課題や道路整備の必要性を感じています。
- 特に災害時の孤立に対する代替性や円滑な物流輸送をはじめとする産業支援、地域医療を支える速達性向上に対して多く回答を頂きました。

頂いた意見を踏まえ政策目標を設定しました。

大樹～広尾間に必要とされる政策目標

災害時の信頼性の高いネットワークの構築が必要

貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援が必要

地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上が必要

課題解決のための対策案

- 地域意見聴取結果を踏まえ、現道の課題解決のためには、道路整備が必要と考えています。
- 政策目標の達成に必要な道路機能、配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような3つの対策案を考えました。

政策目標

災害時の信頼性の高い
ネットワークの構築

貨物車等の安全な走行環境や物
流ルート確保による産業支援

地域の医療不安を解消する高次
医療施設へのアクセス向上

政策目標達成に 必要な機能

- ・ 事故や冬期災害等緊急時の
路線の多重性を確保
- ・ 被災時の地域の孤立を回避

- ・ 農水産品等の物流貨物車交通と
生活交通の機能分担
- ・ 十勝港への安全・確実なアクセス
- ・ 冬期の走行環境の向上

- ・ 走行速度を担保し、速達性を向上
- ・ 安定走行により搬送患者への負担
を軽減

コントロールポイント

学校や病院などの公共施設や史跡等のコントロールポイントに配慮

その他の 配慮すべき事項

- ・ 地域への影響
- ・ 工事中の影響

- ・ 環境への影響
- ・ 経済性

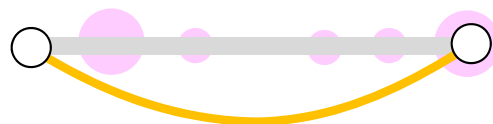
- ・ 市街地等へのアクセス

3つの対策案と 整備イメージ

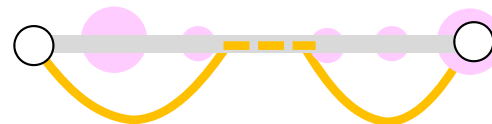
凡例

- : 市街地・集落
- : 現道
- : 別線整備
- - : 現道整備

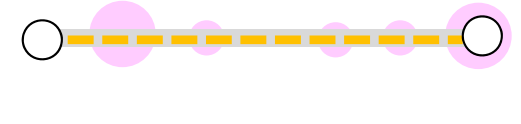
全区間で新しい道路を整備す
る案



現在の国道の一部を有効活用
する案

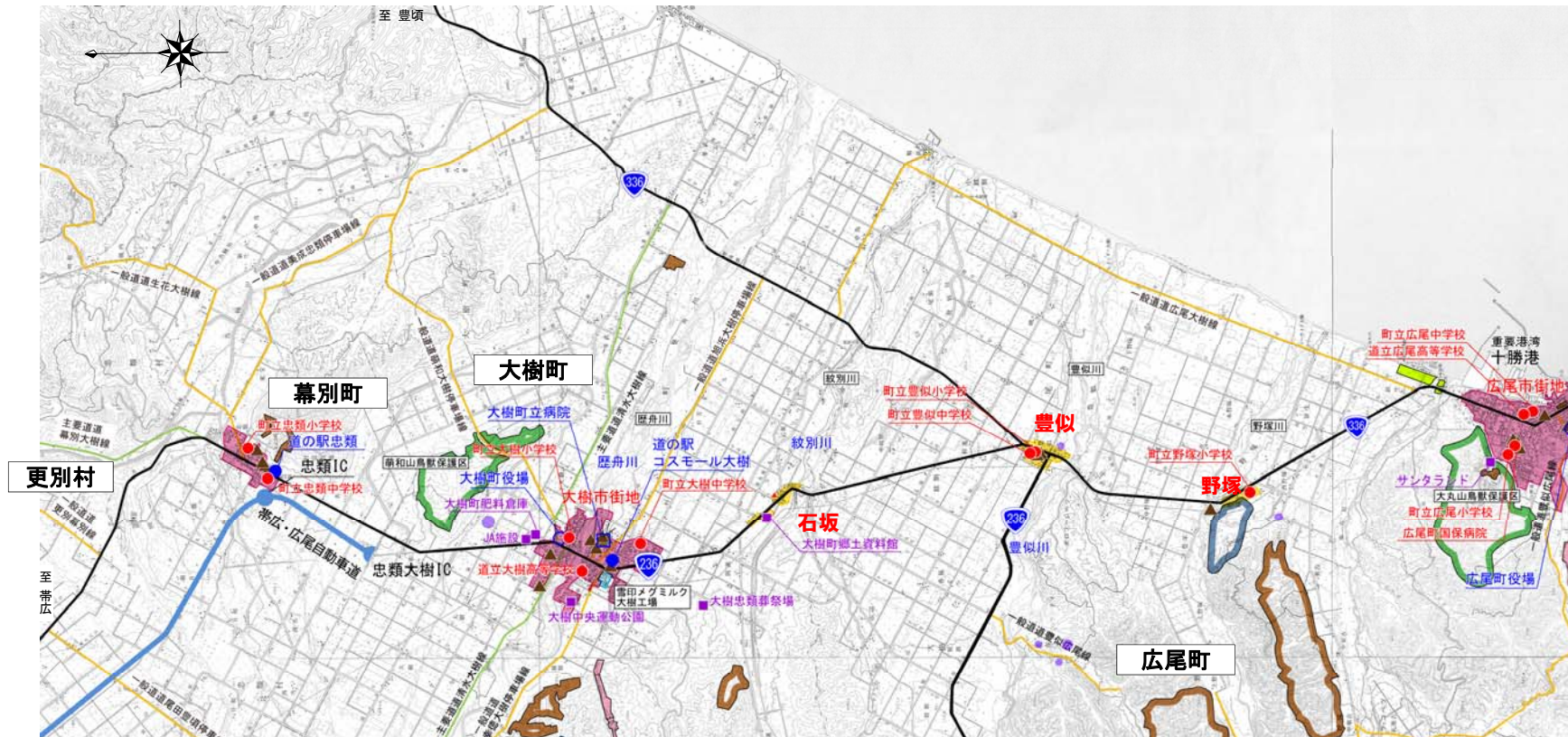


現在の国道を活用し、安全性
や走行性を改善する案



対策案のコントロールポイント

○各対策案の検討にあたっては、学校や病院、都市計画区域等の社会的状況や環境関係法令等に基づくコントロールポイントに配慮します。



凡 例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡 例	
森林法に基づく保安林	土砂流出防備保安林
※ 防風、防砂保安林は除く。	土砂崩壊防備保安林
その他の法令	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
	砂防法に基づく地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	遺跡
	福祉施設
	市街地
	沿線集落

コントロールポイント

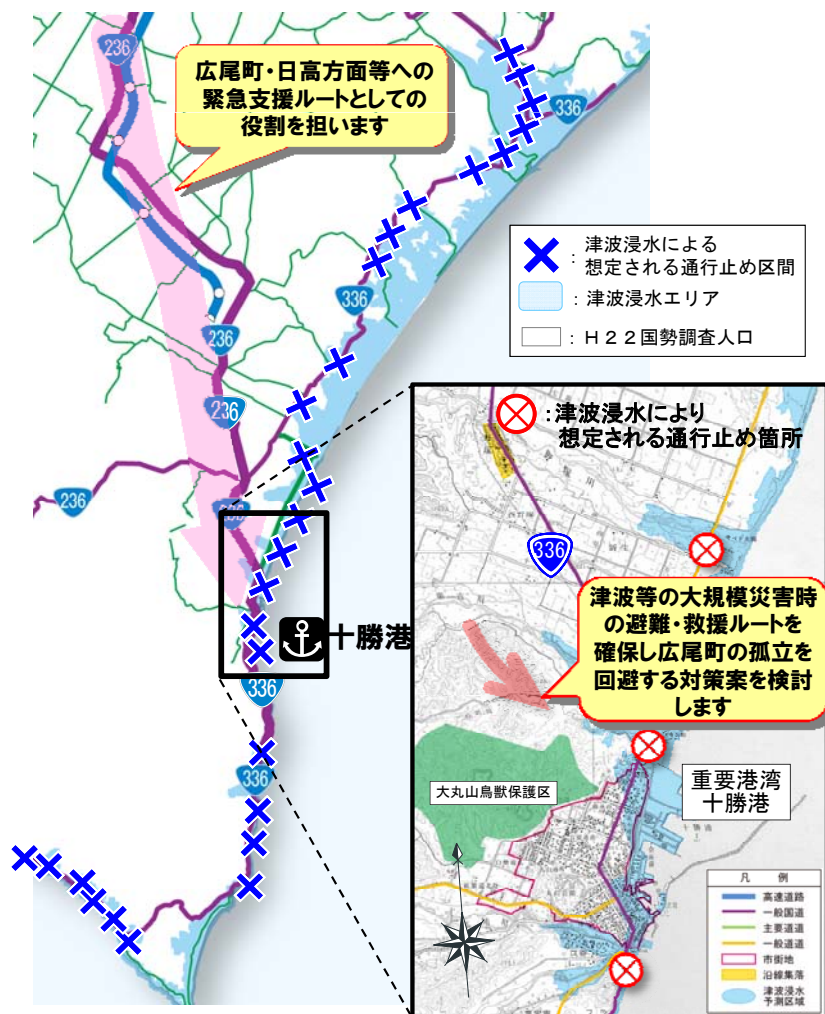
社会状況	◆市街地(都市計画区域)や集落 ◆公共施設(役場、病院、学校、福祉施設等) ◆史跡・遺跡
自然環境	◆保安林(水源かん養、土砂流出防備、土砂崩壊防備、保健保安林) ◆鳥獣保護区

政策目標や配慮すべき事項についての補足

【政策目標達成に必要な機能】

被災時の地域の孤立を回避

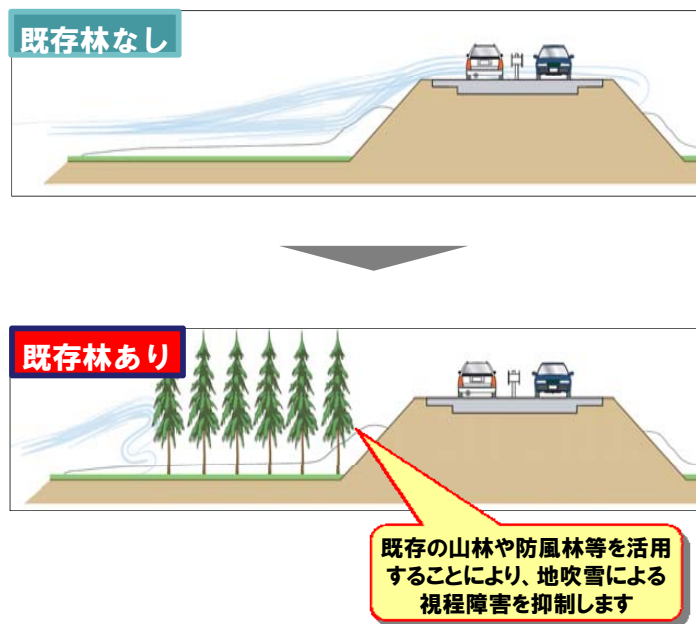
津波等の大規模災害時の避難・救援ルートを確認し地域の孤立を回避する対策案を検討します。



【政策目標達成に必要な機能】

冬期の走行環境の向上

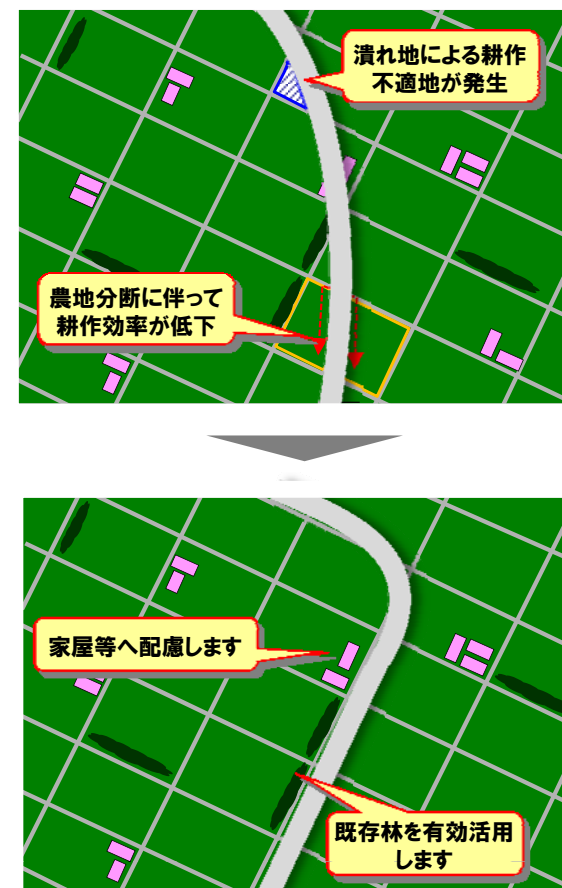
地吹雪による視程障害に強い道路とするため、既存林等を極力活用できる対策案を検討します。



【その他の配慮すべき事項】

地域への影響

作業効率の低下や耕作不適地となるため、農地分断に配慮した対策案を検討します。



3つの対策案

○政策目標達成に必要な機能とその他の配慮すべき事項を踏まえ、3つの対策案を設定しました。



凡 例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡 例	
森林法に基づく保安林※防風、防露保安林は除く。	土砂流出防備保安林
	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣保護区
その他の法令	砂防法に基づく砂防指定地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	市街地
	沿線集落

凡 例	
●津波浸水予測範囲(最大浸水深)(m)	
	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

	【案①】 全区間で新しい道路を整備する案	【案②】 走行性の高い区間で一部現道改良を行う案	【案③】 現在の国道を活用する案
対策案の考え方	山側を通過することで農地の斜め分断や土エバランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案。	現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案。	現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案。
整備イメージ	L=約28km	L=約29km	L=約28km

凡例	
	：現道
	：案①整備箇所
	：案②整備箇所
	：案③整備箇所
	：別線区間

対策案の比較表

対策案 の考え方			【案①】別線案	【案②】別線＋一部現道改良案	【案③】現道改良案
			山側を通過することで農地の斜め分断や土工バランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案	現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案	現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案
整備イメージ					
凡例			—：現道　—：案①整備箇所　—：案②整備箇所　.....：案③整備箇所　—：別線区間		
区間延長			約28km（自動車専用道路）	約29km（自動車専用道路＋現道改良）	約28km（現道改良）
政策 目標	災害時の信頼性の高いネットワークの構築	事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性	多重性を確保できる	別線区間は多重性を確保できるが、現道改良区間はできない	多重性を確保できない
		大規模災害時の避難や救援、地域の孤立	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	災害時の避難ルートはなく、広尾町が孤立する可能性がある
	貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援	交通事故の安全性	通過交通と生活交通を分離し大きく向上できる 動物等との衝突事故も防止できる	別線区間では大きく向上でき、現道改良区間は交通安全対策が必要	現道の交通安全対策により向上する
		冬期の走行環境	既存林等の活用による地吹雪対策により最も向上できる	既存林等の活用による地吹雪対策により向上できる	地吹雪対策が必要
	地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上	高次医療施設への所要時間	所要時間を最も短縮できる	所要時間を短縮できる	所要時間を短縮できない
		搬送患者への負担	安定走行により大きく負担を軽減できる	安定走行により負担を軽減できる	負担軽減は見込めない
配慮すべき事項	地域への影響	優良農地の分断や家屋への影響	山側を通過するため案②に比べ小さい	平地部を通過するため案①に比べ大きい	市街地での拡幅に伴う影響はあるが、全体の影響は小さい
	環境への影響	土地の改変や自然環境への影響	比較的大きくなる可能性がある	別線整備区間では大きくなる可能性があるが、現道改良区間では小さい	比較的小さい
	市街地等へのアクセス	市街地や沿線集落、十勝港へのアクセス性	沿線集落へのアクセスは限定 日高方面へのアクセスが良い	沿線集落へのアクセスが良い	現在と変わらない
	工事中的の影響	工事中的の現道交通への影響と効果の発現	工事中的の影響は少ない 開通による効果発現はIC毎	現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要 別線区間はIC毎、現道改良区間は整備したところから効果発現が見込まれる	工事中的の影響は最も大きく通行規制が必要 現在の国道を改良するため、整備したところから効果発現が見込まれる
	経済性	工事内容と経済性	区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良いため案②と同程度	現道改良区間のコストは抑えられるが、不足土が多いため案①と同程度	現道の改良工事のため案①②に比べコストは大幅に縮減できる
			約350～380億円	約360～390億円	約90～110億円

大樹～広尾間の道路計画に関する地域意見聴取について

質問1. 対策案の比較にあたって、設定した政策目標をどの程度、重視すべきと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらとも言えない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
① 事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性を有し、災害時の避難や被災時の救援により地域の孤立を回避できる道路					
② 物流貨物車交通と生活交通の機能の分担により交通事故が減少し、安全・確実な産業を支援できる道路					
③ 帯広市の医療施設などへの速達性や走行性の向上により、地域の医療不安を解消する道路					

質問2. また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

以下に示す①～⑤の項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらとも言えない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
① 農地の分断や家屋等への影響					
② 自然環境への影響					
③ 市街地や沿線集落等へのアクセス性					
④ 工事中の現道交通に対する影響					
⑤ 整備費用が安い					

質問3. その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等があればご自由にお書きください。

回答は返信はがきに記入願います

地域意見聴取の回答用はがき

意見徴収回答欄【おもて】

料金受取人払郵便

帯広局承認

〇〇〇

差出有効期間
平成27年11月
31日まで
(切手不要)

郵便はがき

0 8 0 8 7 9 0

北海道帯広市西4条南8丁目
帯広開発建設部 道路計画課

帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間
道路計画に関する意見聴取係 行



■あなた自身のことについて（記入または当てはまる番号に○をつけてください）

住所 〒 北海道 市・町・村 性別 ①男性 ②女性

年齢 ①20代以下 ②30～40代 ③50～60代 ④70代以上

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業
⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業
⑫無職 ⑬その他（ ）

■自動車を運転する頻度を教えてください（あてはまるもの1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■大樹～広尾間の利用頻度を教えてください（あてはまるもの1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

■大樹～広尾間の主な利用目的を教えてください（あてはまるもの全てに○）

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事（営業・運送等）
⑤観光・レジャー ⑥その他（ ）

■高速道路の利用頻度を教えてください（あてはまるもの1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

■前回第1回目のアンケートに回答しましたか（あてはまるもの1つに○）

①回答した ②回答していない

意見聴取回答欄【うら】

帯広・広尾自動車道（大樹～広尾間） 第2回意見聴取 回答欄

質問1. 対策案の比較にあたって、設定した政策目標をどの程度、重視すべき
と思いますか

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」
の当てはまる箇所1つに
「○」をつけてください。

	特に重視 すべき	やや重視 すべき	どちらとも 言えない	あまり重視 する必要は ない	重視する 必要は ない
① 多重性、孤立の回避					
② 事故軽減、産業支援					
③ 医療施設等への速達性					

質問2. また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか

以下に示す①～⑤の項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」
の当てはまる箇所1つに
「○」をつけてください。

	特に配慮 すべき	やや配慮 すべき	どちらとも 言えない	あまり配慮 する必要は ない	配慮する 必要は ない
① 農地分断や家屋の配慮					
② 自然環境への配慮					
③ 市街地等へのアクセス					
④ 工事中的影響					
⑤ 整備費用					

質問3. その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備等についてのご意見等
があればご自由にお書きください
